

SETAGAYA TRUST & COMMUNITY DESIGN

ひと・まち・自然

トラまち Press (一財)世田谷トラストまちづくり情報誌

December 2025

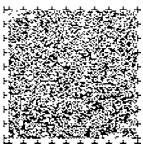
24

Vol.

特集

自分ででもできる

雨庭 AMENIWA



上の「音声コード」に、本誌の概要を記録しています。
専用の読み上げ装置を使用して、音声で内容を聞き取ることができます。

写真：世田谷トラストまちづくりビジターセンター

Check 1

ゲリラ豪雨からまちを守る庭

雨水を一時的に庭に貯めて、ゆっくりしみこませる「雨庭」。地域の災害リスクを減らす一助になります。



自分でできる

雨庭

世田谷区は23区の中でも戸建て住宅が多い街です。そのため、トライアチでは区民の方が個人宅でも実践しやすい「自分でできる雨庭」づくりをおススメしています。



Check 2

非常用水として使える

雨水タンクの水は災害時などの際に非常用水として使えます。また、打ち水や家庭菜園の水やりにも。暮らしにもうれしいエコな庭です。



Check 3

身近にガーデニングが楽しめる

植物を育てるよろこびもたっぷり。庭づくりや園芸の延長として、自然とふれあえる時間が増えます。



雨庭とは

屋根や地面に降った雨水を集めて一時に貯め、ゆっくりと地面へ浸透させる庭です。下水道や河川へ雨水が一気に流れ込むビーカーをずらす一助となるグリーンインフラの手法のひとつです。



Check 4

生きものにやさしい庭

花や草木が増えるとチョウやトンボなどの生きものたちもやってきます。雨庭は生物多様性を育む、いのちにやさしい空間です。



Q

雨庭はどこにつくるの？



Question & Answer

『自分でできる雨庭の手引き Vol.1、Vol.2(発行:トライアチ)』より転載

A 大雨が降ったときに家の敷地をよく観察すると、雨水の流れる方向や雨水がたまりやすい場所が発見できます。「普段から水はけが悪い」「湿り気がある」「水たまりができるやすい」場所に雨庭をつくると土壤へ浸み込む力の改善に役立ちます。

雨どい接続タイプの雨庭の場合には、最初に家にある雨どいの位置を把握します。

その上で、雨どいの近くに雨水タンクや雨庭を設置できる場所は建物等の基礎への影響がないよう、家や塀などの構造物から30cm以上離すのが理想です。

雨どい接続タイプの雨庭の場合は、最初に家にある雨どいの位置を把握します。雨庭をつくる雨庭を設置できる場所は建物等の基礎への影響がないよう、家や塀などの構造物から30cm以上離すのが理想です。



A 雨庭の環境から言うと、乾燥にも一時的な湿潤にも強いもので、イネ科、ユリ科、ヒガンバナ科、ネギ科などの宿根草(※)や球根類などが向いていると思っています。地味にならないようにラーリーフを取り入れてもいいと思います。まずは試してみましょう。おのづとその場所に合うものが残っていくので、よく観察し育てる楽しみを味わいましょう。(矢田)



(※)宿根草：発芽し花を咲かせ、冬になると地上部は枯れるが株は地中に残り翌年も発芽する植物



神谷 博 (かみやひろし)
法政大学エコ地域デザイン研究センター
客員研究員/建築家/景観アドバイザー



矢田 陽介 (やた ようすけ)
ボタニカン代表
一級造園施工管理技士/自然再生士

次ページから、区内の3つの事例を紹介します。

Q

雨庭に合う植物はなんに？



Q

植物は在来種を選んだほうがよいですか？



A 里山や自然の多い場所では、生物多様性の観点から在来種でも別の場所からは持ち込まないことが基本です。区内でも市街地ではそれほど気にしなくてもよいですが、こぼれ種(植物が自然に地面にこぼした種子)で増えるような強い種は避け、増えても元からいた植物と区別がつくような芸種のほうがよい場合もあります。選ぶ際は在来種に限らず、どんな庭にしたいのか目的に沿うようなものを周囲の環境に配慮しながら検討しましょう。(矢田)



神谷 博 (かみやひろし)
法政大学エコ地域デザイン研究センター
客員研究員/建築家/景観アドバイザー



矢田 陽介 (やた ようすけ)
ボタニカン代表
一級造園施工管理技士/自然再生士

次ページから、区内の3つの事例を紹介します。

Q

植物は在来種を選んだほうがよいですか？

Check 5

材料はホームセンターでも

ホームセンターなどで購入できる身近な素材でご自身で手づくりできます。



屋根や地面に降った雨水を集めて一時に貯め、ゆっくりと地面へ浸透させる庭です。下水道や河川へ雨水が一気に流れ込むビーカーをずらす一助となるグリーンインフラの手法のひとつです。

Check 1

ゲリラ豪雨からまちを守る庭

雨水を一時的に庭に貯めて、ゆっくりしみこませる「雨庭」。地域の災害リスクを減らす一助になります。



Check 2

非常用水として使える

雨水タンクの水は災害時などの際に非常用水として使えます。また、打ち水や家庭菜園の水やりにも。暮らしにもうれしいエコな庭です。



Check 3

身近にガーデニングが楽しめる

植物を育てるよろこびもたっぷり。庭づくりや園芸の延長として、自然とふれあえる時間が増えます。



Check 4

生きものにやさしい庭

花や草木が増えるとチョウやトンボなどの生きものたちもやってきます。雨庭は生物多様性を育む、いのちにやさしい空間です。



Check 5

材料はホームセンターでも

ホームセンターなどで購入できる身近な素材でご自身で手づくりできます。



Check 6

ゲリラ豪雨からまちを守る庭

雨水を一時的に庭に貯めて、ゆっくりしみこませる「雨庭」。地域の災害リスクを減らす一助になります。



Check 7

非常用水として使える

雨水タンクの水は災害時などの際に非常用水として使えます。また、打ち水や家庭菜園の水やりにも。暮らしにもうれしいエコな庭です。



Check 8

身近にガーデニングが楽しめる

植物を育てるよろこびもたっぷり。庭づくりや園芸の延長として、自然とふれあえる時間が増えます。



Check 9

生きものにやさしい庭

花や草木が増えるとチョウやトンボなどの生きものたちもやってきます。雨庭は生物多様性を育む、いのちにやさしい空間です。



Check 10

ゲリラ豪雨からまちを守る庭

雨水を一時的に庭に貯めて、ゆっくりしみこませる「雨庭」。地域の災害リスクを減らす一助になります。



Check 11

非常用水として使える

雨水タンクの水は災害時などの際に非常用水として使えます。また、打ち水や家庭菜園の水やりにも。暮らしにもうれしいエコな庭です。



Check 12

身近にガーデニングが楽しめる

植物を育てるよろこびもたっぷり。庭づくりや園芸の延長として、自然とふれあえる時間が増えます。



Check 13

生きものにやさしい庭

花や草木が増えるとチョウやトンボなどの生きものたちもやってきます。雨庭は生物多様性を育む、いのちにやさしい空間です。



Check 14

ゲリラ豪雨からまちを守る庭

雨水を一時的に庭に貯めて、ゆっくりしみこませる「雨庭」。地域の災害リスクを減らす一助になります。



Check 15

非常用水として使える

雨水タンクの水は災害時などの際に非常用水として使えます。また、打ち水や家庭菜園の水やりにも。暮らしにもうれしいエコな庭です。



Check 16

身近にガーデニングが楽しめる

植物を育てるよろこびもたっぷり。庭づくりや園芸の延長として、自然とふれあえる時間が増えます。



Check 17

生きものにやさしい庭

花や草木が増えるとチョウやトンボなどの生きものたちもやってきます。雨庭は生物多様性を育む、いのちにやさしい空間です。



Check 18

ゲリラ豪雨からまちを守る庭

雨水を一時的に庭に貯めて、ゆっくりしみこませる「雨庭」。地域の災害リスクを減らす一助になります。



Check 19

非常用水として使える

雨水タンクの水は災害時などの際に非常用水として使えます。また、打ち水や家庭菜園の水やりにも。暮らしにもうれしいエコな庭です。



Check 20

身近にガーデニングが楽しめる

植物を育てるよろこびもたっぷり。庭づくりや園芸の延長として、自然とふれあえる時間が増えます。



Check 21

生きものにやさしい庭

花や草木が増えるとチョウやトンボなどの生きものたちもやってきます。雨庭は生物多様性を育む、いのちにやさしい空間です。



Check 22

ゲリラ豪雨からまちを守る庭



雨庭が育む 豊かな緑と

「雨庭」の役割は、ゲリラ豪雨などによる水害を抑えるだけではない。雨水を利用して植物が健やかに育つ環境をつくり、自然の力を生かしたガーデニングを楽しむこともできる。そんな雨庭の魅力を実際に生かしているのが、喜多見にある地域共生のいえ(※)「ふくふくのいえ」だ。

オーナーの中野瑞子さんと、ここで「おでかけひろば」を運営する一般社団法人よこいと代表の橋本陽子さんが雨庭に取り組んだのは、トラまちからの「雨庭をつくってみませんか」という提案がきっかけだ。世田谷区は宅地が多いので、個人宅の小さなスペースでも雨庭を作れば水害対策に役立つと聞き、ぜひやりたいとお応えしました」と中野さんは振り返る。橋本さんも「新しいチャレンジで面白そぞうだと思いました」と語る。

2022年、区内で雨庭づくりに取り組む場所を探していた「特定非営利活動法人雨水まちづくりサポート」(以下雨まち)との共催で、「ふくふくのいえ」のプロジェクトはスタートした。

(※) 地域共生のいえ：世田谷区内の家屋等のオーナーが自己所有の建物を活用して主体的に行なうまちづくり活動とその拠点

さまざまな視点が交わり 生まれた理想の雨庭

雨庭づくりでは、中野さんが敷地の一部を雨庭づくりに提供し、橋本さんがその部分の安全面を徹底的に点検し、要望を出した。「3歳以下の子どもが主に利用する場所なので、わずかな段差も危険につながります」。雨水を溜める水がめはメダカを入れてビオトップにするプランもあつたが、水位が3cm以上あれば溺れる危険があるので蓋をして利用する。

「植物や雨水に詳しい皆さんと私たちそれぞれに価値観があり、意見が合はない時もありましたが、時間をかけて丁寧に合意形成した結果、よいものができました」と橋本さんは語る。

雨庭の設計は雨まちが担当し、植栽の設計はトラまちが担当。開花時期の異なる宿根草や球根をバランスよく配置して植えた。中野さんは「水やりしなくとも季節ごとに花が咲き、楽しませてくれます」と笑顔を見せる。かつて雑草に悩んだ駐輪場の一角にはイチゴやハーブを植えたプランターを設置。雨どいから直接雨水を取り込めるようにしている。「たくさん実っ

てみんなでおいしくいただきました。自宅も雑草が多いので真似したいですね」(橋本さん)。

身近な場所がまちを守る 雨庭が生む未来への学び

雨庭は子どもたちの学びの場にもなっている。橋本さんは「プロジェクト中に数回、雨庭のワークショップを開催しました。子どもたちは散歩中にも雨どいを見つけたり、雨水の流れを観察するようになりました。これまで私自身、ゲリラ豪雨対策で個人でできることがあるとは思っていませんでした。自分の関わる場所が役立つてると知り、子どもたちも誇らしいのでできました」と語る。

橋本さんが「雨どいにホースを挿して水がめやプランターに水を引き込むだけでも雨庭の第一歩となるのでは。興味を持ったら少しずつ試してほしい」と語ると、中野さんは「一つずつ仕組みを足していくのもきっと楽しいね」と続けた。

「ふくふくのいえ」の雨庭は、美しい緑で地域を彩りながら、身近な場所が防災や減災の一助となることを教えてくれる。

ふくふくのいえ

オーナーの生家の1階と庭を活用し、乳幼児とその親のつどい場「おでかけひろば」を運営。オーナーによる「ご近所サロン」の日は近隣のシニアの憩いの場に。庭はトラまちの「小さな森」としてひらくかれています。



詳しくは
こちら



オーナー
中野 瑞子さん
一般社団法人よこい
代表
橋本 陽子さん

雨庭の設計は雨まちが担当し、植栽の設計はトラまちが担当。開花時期の異なる宿根草や球根をバランスよく配置して植えた。中野さんは「水やりしなくとも季節ごとに花が咲き、楽しませてくれます」と笑顔を見せる。かつて雑草に悩んだ駐輪場の一角にはイチゴやハーブを植えたプランターを設置。雨どいから直接雨水を取り込めるようにしている。「たくさん実っ

ひらかれた雨庭からはじまる

防災と地域の「ミニ」ニティ



「きっかけは区が開催している『世田谷グリーンインフラ学校』のチラシ。『自分でもできる雨庭づくり』というタイトルに惹かれました」

2018年に大阪で小学校のブロック塀が倒壊し、児童が犠牲になった事故に胸を痛めていた中村恭子さん。受講を決めた当時は、上野毛にある自宅のブロック塀を撤去したばかり。通りに面して開けた駐車場と庭を、どう整備するか考えていた時期だった。

講座では座学と実習を体験し、雨庭を自ら施工するプランも立てる。29年前、「自然豊かな場所で子育てがしたい」と真鶴を気に入り移住。仕事は世田谷との二拠点生活となつた。自然を愛おしく思い、共生の関わりを大切にしてきた中村さん。「なるべく土を残したい」と考えたプランは講師陣からも高く評価された。

講座が修了するとすぐ、区の緑化助成や雨水浸透ます・浸透トレンチ等の助成を申請し、工事に着手。「近所の造園屋さんにお願いして駐車場は雨水浸透型に整備し、仕上げは煉瓦と



想像以上の豊かな暮らししが広がつた地域に根づく憩いの雨庭

河村さんご夫妻が代田に所有する建物は、斜面の中腹にある。1階の入口が道路より低くなっているため、雨は不安の種だつた。「近年のゲリラ豪雨で、とうとう浸水してしまったんで案していた時、妻の豊子さんから渡されたのが世田谷グリーンインフラ学校のチラシだった。「雨庭について学ぶだけのつもりだったのに、工事を決めていました」と笑う。一級建築士である容治さんにとって「多くの学びがあった」と振り返る。

受講後も、区のイベントにブースを出していったトラまちを夫婦で訪ねた。豊子さんによると、「トラまちさんが雨庭の相談窓口をちょうど試行していく、雨庭づくりに必要な建築士やガーデナーなどの専門家を派遣してくださいたんです。そこからトントン拍子に話が進みました」



世田谷グリーンインフラ学校 4期生
河村 容治さん

河村 豊子さん



▲雨庭花壇は、芽吹きから枯れるまで自然風の雰囲気を愛でる「ナチュラリストイックガーデン」を意識したエリアや、ハーブなど食べられる種類を集めたエリアなどで構成されている。



3
代田
DAITA

道路と敷地の間には立ち上がりをつくり、雨水が流れ込むのを防ぐだけでなく、雨庭となる花壇を設け、雨水を地面に浸透させている。障害児のための布おもちゃを手づくりするボランティア団体「T.O.Y.工房どんぐり」の代表を務める豊子さんは「グリーンインフラ舗装(透水性ブロック)も施し、ただの通路だった斜面が平地となり、作業場として使えるスペースに生まれ変わりました。いつも1階の一室で活動しているますが、天気のよい日はここにテー ブルを出し、花を見ながら作業するのが楽しみです」と笑顔を見せる。

もともとあつたベンチを再び道路沿いに設置し、隣に自動販売機を置くと、憩いの場としての役割が高まつた。「犬の散歩の方などがここで待ち合わせをしたり、休んでいく方も。近所の方からも感謝の言葉をいただいています」



2
上野毛
KAMINOGE



世田谷区の助成制度
についてはこちら
[QRコード](#)



▲ブロック塀 撤去前



▲ブロック塀 撤去後
みどりが感じられる開放的な空間に。

世田谷グリーンインフラ学校 2期生
中村 恭子さん



▲蓮の花



▲「ご自由にどうぞ」と育てた苗や採っておいた種を並べる。
「お礼の声や、中には自宅で採れた野菜をくれた人も」

雨
庭
AMENIWA

MAP



雨庭スポット

所在地	住所
世田谷トラストまちづくりビジターセンター	成城 4-29-1
地域共生のいえ「ふくふくのいえ」	喜多見 9-14-15
次大夫堀公園内里山農園	喜多見 5-5
弦巻四丁目松の木鈴木市民緑地	弦巻 4-22-2
奥沢二丁目公園	奥沢 2-39-9

「自分でもできる雨庭」の相談窓口を試行中です

個人宅などで取り組める雨庭づくりについて、一層普及していくための雨庭相談窓口を試行しています。まずはお気軽にご相談ください。

(一財)世田谷トラストまちづくり トラストみどり課

☎ 03-6379-1624 (受付: 平日8:30~17:00) Fax.03-6379-4233

✉ stm.201@setagayatm.or.jp



雨庭の宿根草の手入れを 区民と一緒に取り組んでいます

令和4年度「世田谷グリーンインフラ学校」の演習で手づくり施工した3箇所の雨庭と宿根草の手入れを月に1回、区民の皆さんと一緒に取り組んでいます。その活動の様子をご紹介します。



13:30

現地に集合

3箇所の雨庭の宿根草の様子を観察しながら前回の手入れの振り返りをします。

13:45

集まったメンバーで今日の作業内容を確認、分担して作業開始！

14:30

花がら・雑草とり
大きく育ちすぎた株は切り戻しや株分け



15:00

雨水を呼び込む雨庭だけ
植え替え・お手入れ後は
たっぷりお水をあげよう



ベンチで休憩しながら今日の作業の振り返り
収穫したハーブや種をみんなで分けます

場 所 | 区立奥沢二丁目公園 (東京都世田谷区奥沢 2-39-9)

活動日 | 第二金曜日 13:30 ~ 15:30 (夏は午前中の場合も)

申 込 | 不要・直接現地へ

※雨天・酷暑の場合は中止します。

財団 SNS 「#奥沢コミュニティ雨庭」で検索

服装・持ち物 | 長袖長ズボン、帽子、軍手、水分補給用の飲み物など

問合先 | (一財) 世田谷トラストまちづくり

☎ 03-6379-1620 (平日 8:30 ~ 17:00)

その場で手作りハーブティを
試飲する日もあり



▲切り出された材を次大夫堀民家園へ提供



▲伐採されて2本のヒマラヤスギに

成城三丁目 こもれびの庭市民緑地

「3本のヒマラヤスギ」の1本を
お別れ茶話会を経て伐採しました

長らく成城のまちで愛されてきた成城三丁目こもれびの庭市民緑地「3本のヒマラヤスギ」は、中央の1本に樹勢の弱まりが確認され、これまで回復のために様々な対策を行ってきました。

しかし、残念ながら改善の兆しがなく、国分寺崖線のみどりを守る(一財)世田谷トラストまちづくりとして大変つらい決断ではありましたが、まちのみどりを守る観点から両側2本への将来的な影響に鑑み、去る1月15日(水)に中央の1本を伐採しましたのでご報告いたします。



▲1992年10月

・所在地	成城3-6-20
・公開日	年末年始を除く、午前9時～午後5時 (1月～3月は午後4時まで)

成城三丁目こもれびの庭市民緑地

伐採とその後

現地には想いを伝える形で切り株を残し、切り出された材の一部は、次大夫堀民家園ボランティア「木挽きの会」にて新たなカタチで活かされます。また、成城の文化・風土を次の世代に残す取り組みの一環として、成城のまちづくりと深い関わりのある成城学園の教育研究所へ年輪が分かる材を提供しました。今後は2本のヒマラヤスギの維持管理に努めるとともに、みどりの記憶の継承を図っていきます。

伐採当日は天候にも恵まれ、伐採作業を開始する前には、これまで成城のシンボルとして見守っていてくれた感謝の気持ちを込めて、地域の皆様と一緒に清めを行いました。これに続いての作業は安全第一とし、空師と呼ばれる職人がロープを巧みにさばきながらあつという間に天辺へ登り、クレーンオペレーターとの匠の技の連続により、日没前に全ての作業を無事に終了することができました。



トラストまちづくり 会員募集

当財団では、賛助会員を募集中です。寄附として1,000円以上を納めてくださった方を、その年度の賛助会員としています。

いただいた寄附金は、当財団の活動に役立たせていただきます。会員の方には年に4回、イベント情報などをお届けします。

詳しくは
こちら /

トラストイベントカレンダー▶



お別れ茶話会

伐採に先立ち、昨年11月23日(土)、市民緑地にお集まりいただいた「ヒマラヤスギお別れ茶話会」では、成城の歴史やみどりに詳しい荒垣恒明氏(成城学園教育研究所)と岩村徹氏(成城自治会副会長)にご登壇いただき、ヒマラヤスギの思い出や大切に残したいみどりについて、40名ほどお越しいただいた地域の皆様と語り合いました。

また、市民緑地オーナー・ご親戚・成城自治会のご協力で、成城のまちならではの特徴のある樹木や、こもれびの庭の昔懐かしい様子を写した写真が展示され、普段立ち入れない芝生の庭も開放いただき、3本のヒマラヤスギを背景に記念撮影を行いました。



▲会場に設けられた写真展示



▲お別れ茶話会での語り合い



小さな森は、世田谷のまちに点在する個人所有のお庭や緑地を地域の宝として登録・保全する財団独自の取り組みです。区民の方々にみどりを保全することの大切さを知ってもらうために公開日を設けてオープンガーデンを開催しています。個人宅の庭が多いため、通常は開催日以外は非公開ですが、下記の小さな森は普段でも訪れるることができます。

小さな森
についての詳細は
こちら



成城コルティ小さな森

成城6-5-34 成城コルティ4階 公開時間：10時～22時



成城学園前駅に直結する「成城コルティ」の4階にある2つの屋上庭園も「小さな森」に登録されています。東側の「雜木林の丘」は、成城に見られた雑木林をイメージした木立てで、新緑や紅葉などで季節を感じられます。西側の「オリーブの庭」は、その名の通りオリーブなど柑橘類や草花など西洋的な庭で、休憩もでき、晴れた日は富士山も眺めることができます。「成城コルティ」の営業時間内は、基本的にご自由に散策が可能です。



瀬田・水琴窟の音響く小さな森

瀬田5-4-3 公開時間：9時～17時



瀬田農業公園(フラワーランド)や旧小坂緑地、農地なども点在するみどり豊かな瀬田地区にある小さな森です。和風庭園を基準に作られており、つくばい、延段、竹垣、樹木などが配置されています。また、お庭の奥には名称の由来となった水琴窟(水滴が落下する際に発せられる音を反響させる仕掛けのこと)があります。水琴窟が奏でる清らかな水滴の音色を、ぜひとも体験ください。

野沢3丁目テットーひろばの小さな森

野沢3-14-22
開園時間：10時～17時(11月～1月は16時まで)
休園日：木曜日・日曜日・お盆時期・年末年始



住宅街にひと際目立つ白い鉄塔の真下にある小さな森です。NPO法人野沢3丁目遊び場づくりの会が運営する「のざわテットーひろば」は、子どもたちの成長を自然豊かな環境で見守れる地域の集いの場です。藤棚でのおままごと、泥んこ遊びにどんぐり探し…。クスノキにかかったツリーハウスや果樹等で構成されたお庭は、今後の小さな森の多様性を感じることができます。



一般財団法人世田谷トラストまちづくり
SETAGAYA TRUST & COMMUNITY DESIGN

[財団ホームページ]
世田谷トラストまちづくり
<https://www.setagayatm.or.jp/>

Facebook



X(旧Twitter)



Instagram



2025年12月発行

〒156-0043 世田谷区松原6-3-5
Tel 03-6379-4300(代表)
Fax 03-6379-4233